

# 規格

## ハイメフロン



PAT.商品

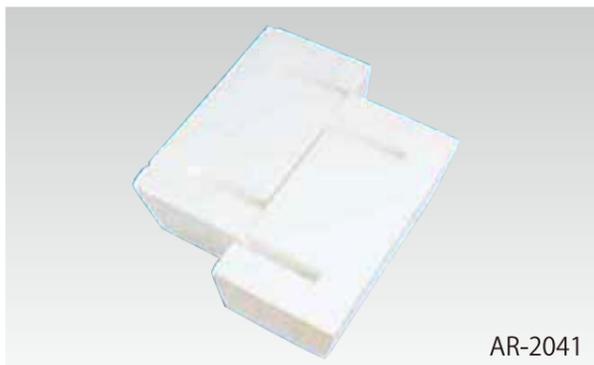
### ハイメフロン規格表

品番	耐圧盤切断用(Aタイプ)	H鋼巾×厚み(mm)
AR-2001	A-2005	200×50
AR-2002	A-2505	250×50
AR-2003	A-3005	300×50
AR-2004	A-3505	350×50
AR-2005	A-4005	400×50

品番	スラブ貫通用(Hタイプ)	H鋼巾×スラブ厚み(mm)
AR-2006	H-2015	200×150
AR-2007	H-2020	200×200
AR-2008	H-2025	200×250
AR-2013	H-2515	250×150
AR-2014	H-2520	250×200
AR-2015	H-2525	250×250
AR-2020	H-3015	300×150
AR-2021	H-3020	300×200
AR-2022	H-3025	300×250
AR-2023	H-3030	300×300
AR-2024	H-3035	300×350
AR-2025	H-3040	300×400
AR-2026	H-3045	300×450
AR-2028	H-3515	350×150
AR-2029	H-3520	350×200
AR-2030	H-3525	350×250
AR-2031	H-3530	350×300
AR-2032	H-3535	350×350
AR-2033	H-3540	350×400
AR-2034	H-3545	350×450

※上記以外の寸法も製作できます。単位：2個/組

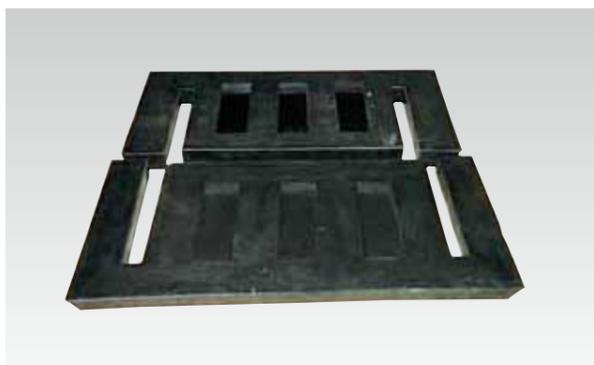
## スチロールBOX



AR-2041

ハイメフロン規格表を参照してください。  
※難燃タイプも製作可能です。

## ラバーBOX



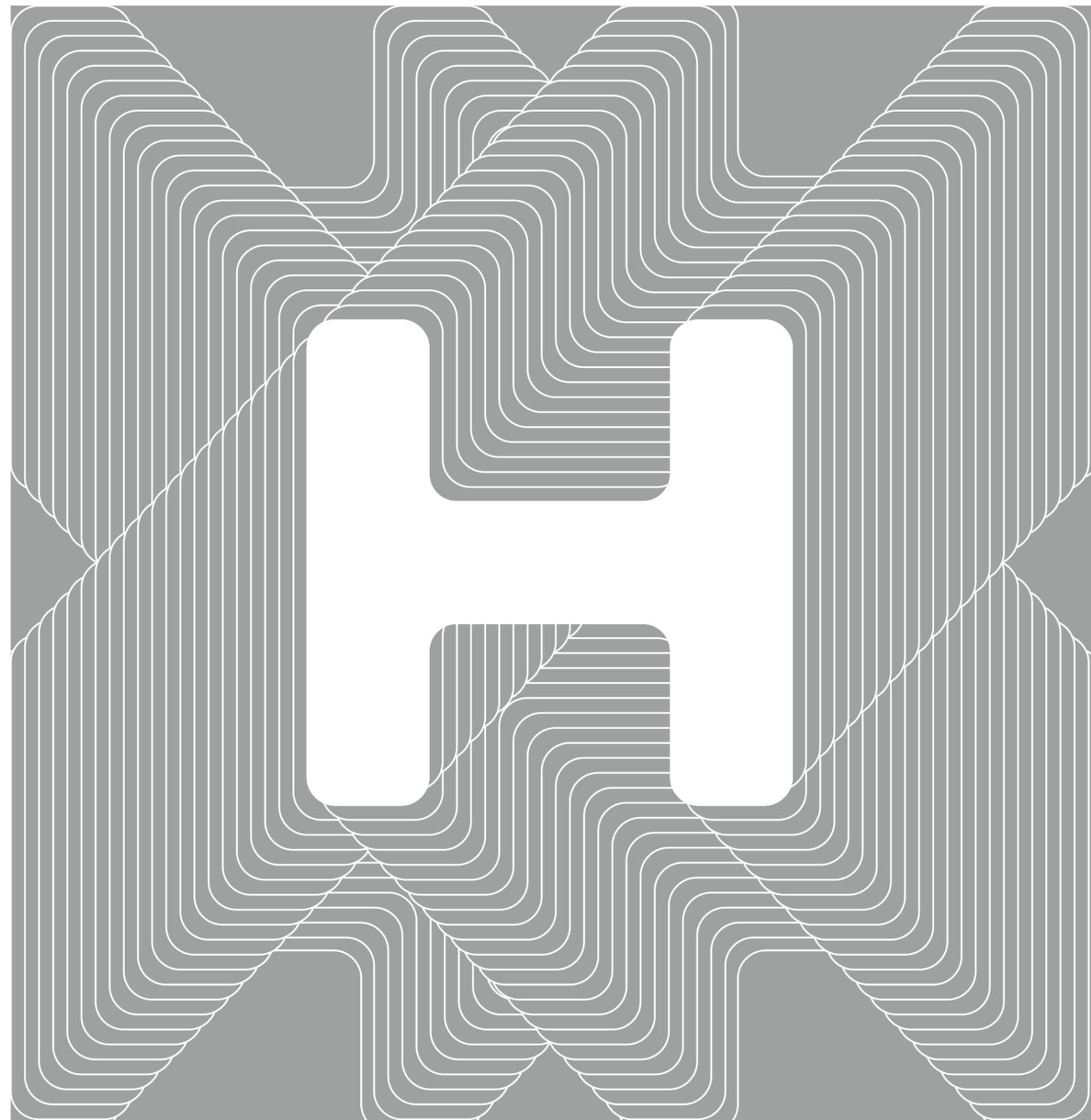
### ラバーボックス規格表

品番	規格	H鋼巾×外寸×厚み(mm)
AR-2051	R-3003	300×420□×30
	R-3503	350×500□×30
		350×550□×30
	R-4003	400×500□×30

※ラバーBOXは耐圧盤切断用のみとなります。

## 構台H鋼引抜材

# ハイメフロン®



発売元

ゴムとプラスチックで創造する  
**アヲオ株式会社**  
[www.arao.co.jp](http://www.arao.co.jp)

東京支店 03-5367-5335 福岡支店 092-720-1313 札幌営業所 011-616-6330  
 大阪支店 06-6779-5681 仙台営業所 022-388-7741 横浜営業所 045-470-5100  
 名古屋支店 052-219-6211 広島営業所 082-870-0070 さいたま営業所 048-669-2577

取扱店



< 本社・大阪支店 >

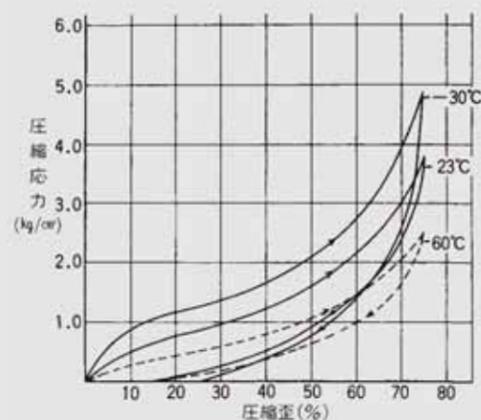
# ハイメフロン® 工法は「安全性」「施工性」「経済性」に優れ、床盤の断面欠損を最小にします。

## ハイメフロンの特徴

メフの圧力特性

Fig-1 メフの圧縮特性 圧縮応力-圧縮歪線図(温度依存)

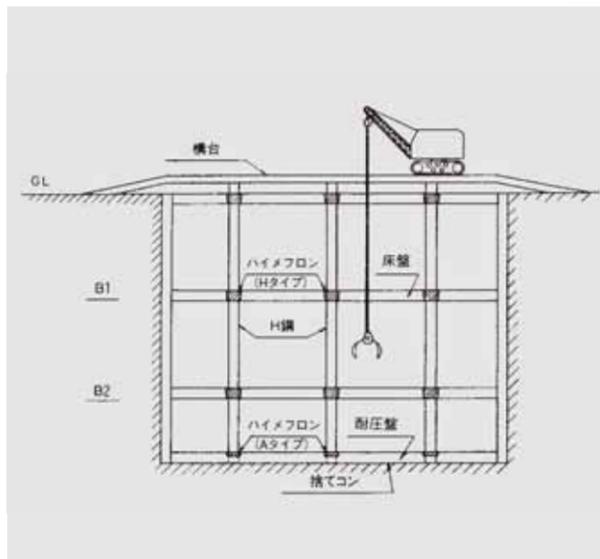
高密度 0.034g/cm<sup>2</sup>



ハイメフロンは旭化成(株)が開発した発泡ポリエチレン「メフ」を素材に金型成形しています。メフ素材は耐久性に優れ、割れや欠け、摩擦等による粉塵の発生も少なく、コンクリートとのハクリも容易です。

## ハイメフロン工法とは

ハイメフロン工法使用箇所



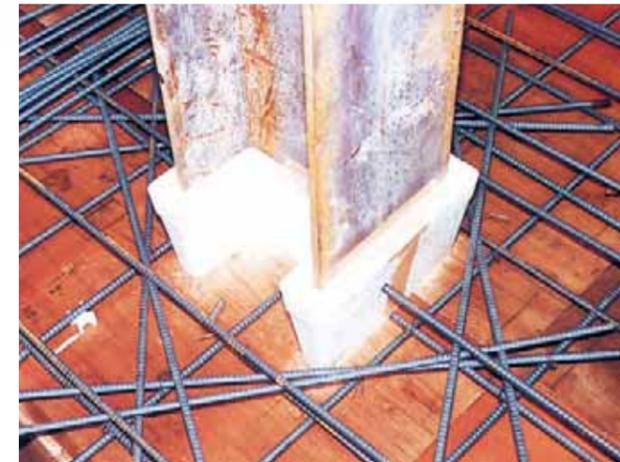
地下掘削作業時に、地上に設置するクレーン車など重機械類の作業台となる構台(ステージ)を支持するH鋼を、地下構築後に引抜く作業が、従来の工法である箱抜工法と比較し、より安全・簡単・スピーディーに施工・引抜きできる工法です。

## ハイメフロン工法の施工事例

耐圧盤切断用(Aタイプ) 施工例



スラブ貫通用(Hタイプ) 施工例



Hタイプ取外し後の開口部分



## ハイメフロン工法のメリット

ハイメフロン工法の箱抜工法と比較表(ご採用者の判定による)

項目	ハイメフロン工法	箱抜工法
1 総コスト	1/2	1
2 断面欠損	小	大
3 開口面積	小	大
4 開口内補強鉄骨	殆んど不要	必要
5 充填モルタル	○	×
6 充填コンクリート打設	×	○
7 充填用型枠	必要	必要
8 安全性	良	普通

- 施工して取外すだけの簡単工法
- 断面欠損が小さく補修が簡単
- 開口部が小さいので人や物などの落下を防止

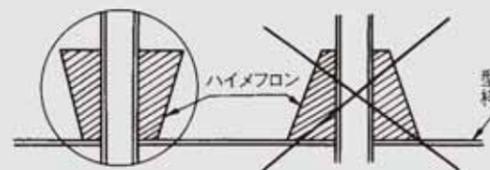


従来工法のデメリット(箱抜工法)

- ・ 型枠が必要
- ・ 施工に手間がかかる
- ・ 開口部が大きい

従来工法(箱抜工法)での開口部

## ハイメフロンの正しい使用方法



- ① テーパーがついていますので正しくセットしてください。
- ② 本体が浮き上がらないようにガムテープ等でH鋼にしっかり留めてください。
- ③ ハイメフロンの合わせもガムテープ等でしっかり留めてください。